

協 纂 報 日 藝

日本篆刻家協会 ニュースレター 2026.6.30 第20号
発行 日本篆刻家協会 会長 尾崎蒼石 理事長 真鍋井蛙

日本篆刻家協会 563-0032 大阪府池田市石橋2-2-10-203 編集 常務理事 北田成磊

理事長挨拶

理事長 真鍋井蛙

第四二回日本篆刻展が無事盛会裡に終了しましたことを報告いたします。会期中はお忙しい中を多くの皆様にご来場いただき厚く御礼申し上げます。本展を支えてくださった出品者の皆様、兵庫県をはじめご後援各位、運営に携わった会員・スタッフの方々に理事長として心より感謝申し上げます。また、初めて篆刻にふれる来場者や学生の皆さんが熱心に作品をご覧になる姿に篆刻芸術の新たな広がりを感じました。特別展示の「関西万博作品・西冷印社日本名誉社員作品」にも幹部の先生方の熱量を感じました。昨年、平田蘭石先生・中島春緑先生・黄平齋先生・北室南苑先生が黄泉の旅に出られたことは痛恨の極みでありました。各印社の皆様にお願ひして先生方のお作を展示させていただき、先生方との思い出を回想したのは私だけでは無いでしょう。

また今回初の試みとして実施しました「篆刻体験」は、多くの方にご参加いただき、篆刻への関心の高さを実感いたしました。自ら印材に刀を入れ、印を刻り上げる体験を通して作品鑑賞だけでは伝えきれない「作る喜び」や「刻す手応え」に触れていただけたことは、協会にとっても大きな成果であったと思います。日本篆刻展は篆刻芸術の水準向上と次世代への継承を大きな使命として歩んでまいります。これからも日本唯一の篆刻公募展としての役割を大切にしつつ、篆刻体験をはじめとする教育・普及企画を充実させ、より多くの方に篆刻の魅力に触れていただける場を広げてまいりたいと思っております。

▷会場風景



▷授賞式の様子



篆刻体験と『王一品筆莊』特別陳列

副理事長 黒田玉洲

第四二回日本篆刻展に特別企画として『ワークショップ／篆刻体験（一文字印を刻す）』を開催しました。初めての試みでしたが兵庫県内社中（娯憚文会・不華篆会・篆鶴社・琴心篆会・明分篆会）有志の指導の下、篆刻の普及発展の為に実施し、小学一年生から八〇代（？）の方まで五五名に体験して頂きました。見慣れない篆書体に『難しい文字ですね』との感想や、印稿作成、印面への転写等工程を進めるに伴って『筆で転写するのですね』と感心とともに感嘆の様子が見られました。慎重に（？）奏刀し一字を刻し終わった印影を見て『嬉しい』と達成感と充実感の溢れた表情は私たちの喜びでもありました。この度は株式会社呉竹様からご提供頂いた印材『大和青田』を使用させていただき参加者へのお土産・記念となりました。今後も書く喜びと共に刻す喜びも楽しんで頂ければと思います。

また特別参考陳列として、中国老舗筆舖『王一品筆莊』の許劍鋒社長が来日され貴重な筆の陳列展示があり、参観者は垂涎のまなざしで興味深く鑑賞しました。今後も様々な企画・事業を通じて篆刻の普及啓発発展の為、篆刻の多様性を意識しながら積極的に実行に移していければと思っております。

◁ワークショップの様子



◁王一品筆莊の展示



日本篆刻家協会

〒563-0031 大阪府池田市石橋二丁目二十牧野ビル二〇三号
TEL 〇七二-七六〇-三八五二 FAX 〇七二-七六〇-三八五三
E-mail: info@n-tenkoku.jp

※改正に伴い、協会規約と内規（別紙）を添付しましたのでご確認下さい



8月課題「掃地焚香」

役員
(草田翠苑選)



容庸



南浄



沙舟



真弓



龍泉

○木村容庸 萬谷碧風
○大城南浄 福谷華紅
○丸山沙舟 田原真山
○内田真弓 古瀬章山
○三枝龍泉 大野勝山
○古野燕安 青木雄山
○井畑嘉南 川崎白水
○浅野道男 計五四人

今回は、何時より目に止まる作品が少なく、残念に思います。もう少し踏み込んで、自分の意図する所を表現して欲しい。そして最後の押印を慎重に。次回に期待します。

常任委員
(井後雅堂選)



井墨



幸國



悦治



貴美子



極浦

○泉 井墨 田中紅珠
○中島幸國 中本智玉
○兼子悦治 田辺碧水
○西岡賢子 山中敬人
○奥島極浦 川栄玉峯
○永田乾石 木谷劉石
○服部和彦 松村信夫
計二十九人

今回の作品にも回文が多く見られた。元々、回文は中国人の単姓(一字姓)が多く、名が分割されてしまふのを防ぐために行われた。詩句印では、逆に読みにくくなると、よほどの意図効果がある場合を除き回文は避けた方がよいと思う。

委員
(吉江翠光選)



正義



紅玉



凌慶



啓志



桂舟

○森下正義 小出 武
○池田紅玉 藤田 勉
○岩本凌慶 吉田哲幸
○高木啓志 本間輝衣
○指輪桂舟 山下忠洋
○佐野真咲美 川野蘇風
○大喜多清輝 浦田紫雲
○山本智子 計三六人

全体的にしっかりと布字配置されていたと思ふ。一部の方が、印泥が良くないのか、練り方が足りないのか、付きの悪いのがあった。もう少し時間をかけて、完成出来ればいいのに！と思う作品も数点目に付きました。

会員
(吉田雅風選)



桑舟



博則



勝竹



聖代



俊二

○中西桑舟 遠藤蘭堂
○伊藤博則 柴田聖風
○松本勝竹 鶴見兼潤
○高島俊二 稲葉碧華
○渡部雪華 林 正樹
○米澤春園 伊藤光崖
○道下喜山 計四二人

全般的に「掃地」に比して「焚香」が小さく、特に「香」が押しつぶされているように見えるものが多く見られました。朱文に佳印が多い印象でした。今回は印泥のつけ過ぎあるいは薄過ぎで刻線の妙を損なっているものが数点あり残念でした。

9月課題「人長壽」

役員
(黄 平齋選)



知了



五岳



榮子



華紅



榴華

○寺田知了 正和杏葉
○小松五岳 内田真弓
○中井榮子 川崎白水
○福谷華紅 戸出紅桃
○金井榴華 津田秀風
○立石登峰 木村容庸
○岡崎嘉石 計五六人

今回応募された人長壽課題は作風多様、篆法もそれぞれ、但し字体混用や配字不規則の問題は依然として見受けられる。篆刻字典の慣用は非常に大切、すべての文字に明確な出典があるべき、出典が明示されていない文字の使用は避けるべきである。

常任委員
(北田成磊選)



井墨



管玉



幸國



紅霞



雪峰

○泉 井墨 川栄玉峯
○中本智玉 松田慶博
○中島幸國 田邊 進
○藤田紅霞 中出孝美
○白鶴雪峰 八木壽石
○奥島極浦 三宅漢月
○山中敬人 田中紅珠
○兼子悦治 計三二人

今回は先人の作に範を求めた印影が目を引き、最後の「文字」は「まね」と読み、「まね」の意味を持っています。つまり模倣する、という自己自身の感性に任せて刻してしまいがちですが、まず先人との対話が先だと思えます。

委員
(出田塘葭選)



武



智子



魯州



啓志



凌慶

○小出 武 中野桃華
○山本智子 池内龍泉
○金子魯州 新 尚園
○川端聖代 指輪桂舟
○高木啓志 吉田草心
○岩本凌慶 浦田紫雲
○佐野真咲美 永田佳子
○川土屋松苑 計三八人

今回は「人長壽」の三字印の課題です。最初、最後の「文字」は一行に入れる事になります。画数の多い「壽」を一行に入れ、左右の文字の分間をそろえた作品が大半でしたが、あえて入れ方を考え、疎密のきいた作品もいくつか見られました。

会員
(大村雪陵選)



光崖



桂扇



聖代



桑舟



厚子

○伊藤光崖 林 正樹
○八木桂扇 渡部雪華
○川端聖代 柴田聖風
○中西桑舟 田窪優子
○五十里厚子 林 咲子
○鶴見兼潤 飛澤野文雄
○矢口裕子 岡本五月
○広森勝竹 計四〇人

三文字印で一字目粗、三文字目密で正字形ではどちらかを一字の判断で二分していました。いづれにせよ、無理なく布字する工夫が見られ、収まりの良い長方形での佳作も多く見られました。

